

# 平成25年（2013）10月 入域観光客数概況

10月の観光客数は、54万3,000人  
対前年（H24）同月比 +2万3,300人、+4.5%  
～外国客数は、早くも前年度の年間実績を超える～

## 入域状況

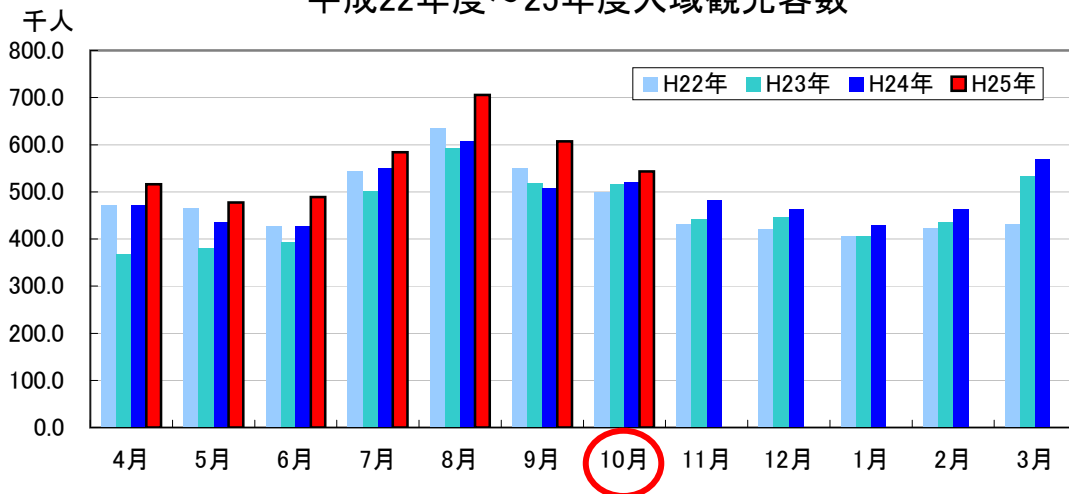
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	485,200 人	488,200 人	△ 3,000人	△ 0.6%	89.4%
外国客	57,800 人	31,500 人	+ 26,300人	+ 83.5%	10.6%
合計	543,000 人	519,700 人	+ 23,300人	+ 4.5%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	485,200 人	488,200 人	△ 3,000人	△ 0.6%	90.8%
外国客	49,200 人	25,300 人	+ 23,900人	+ 94.5%	9.2%
合計	534,400 人	513,500 人	+ 20,900人	+ 4.1%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



## 国内客 入域状況

10月は、上旬の台風23号24号による航空便欠航に伴い、旅行キャンセルが相次ぎ、13か月ぶりに前年実績を下回った。中旬以降は大型イベントの誘客効果もあり、若干持ち直した。

11月は、国内旅行はTDR、スカイツリーの誘客効果で東京方面、式年遷宮の山陰・東海方面の人气が継続しているが、沖縄旅行も関西方面からの入込を中心に好調に推移していく見込み。

## 外国客 入域状況

10月は、台風による航空便欠航、クルーズ船寄港キャンセルがあったが、韓国、香港を中心に安定して推移した。3連休中のボイジャー等のクルーズ船寄港により欧米人観光客が増加。

11月以降、オフシーズンではあるが、台湾、香港からの入込については堅調に推移し、釜山那覇路線が就航する韓国については、これまで以上に増加することが期待できる。また、中国人向けクルーズ船の寄港が計画されていることから、中国人観光客入込の回復が期待できる。

## 国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	252,400 人	259,200 人	△ 6,800人	△ 2.6%	52.0%
関西方面	90,000 人	83,100 人	+ 6,900人	+ 8.3%	18.5%
福岡方面	57,100 人	58,100 人	△ 1,000人	△ 1.7%	11.8%
名古屋	36,900 人	38,900 人	△ 2,000人	△ 5.1%	7.6%
その他	48,800 人	48,900 人	△ 100人	△ 0.2%	10.1%
合計	485,200 人	488,200 人	△ 3,000人	△ 0.6%	100.0%

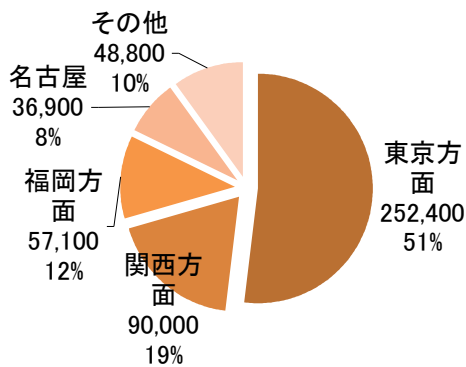
※国内海路客 1,600人を含む(鹿児島:1,600人)

## 外国客 国籍別入域状況

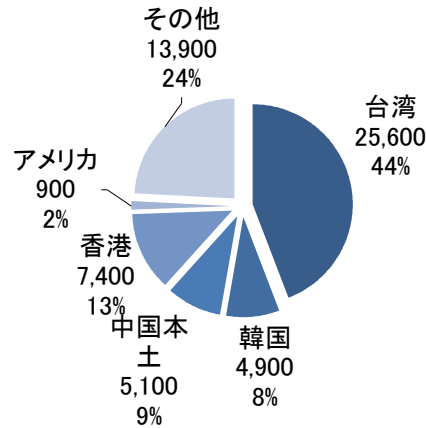
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	25,600 人	25,600 人	15,800 人	+ 9,800人	+62.0%	44.3%
韓国	4,900 人	4,900 人	2,300 人	+ 2,600人	+113.0%	8.5%
中国本土	3,300 人	5,100 人	2,900 人	+ 2,200人	+75.9%	8.8%
香港	7,400 人	7,400 人	3,400 人	+ 4,000人	+117.6%	12.8%
アメリカ	900 人	900 人	500 人	+ 400人	+80.0%	1.6%
その他	7,100 人	13,900 人	6,600 人	+ 7,300人	+110.6%	24.0%
合計	49,200 人	57,800 人	31,500 人	+ 26,300人	+83.5%	100.0%

### 国内客の地域構成比



### 外国客の国籍構成比



## 外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	17,900 人	17,900 人	+101.1%	48.0%	7,700 人	7,700 人	+11.6%	37.6%
韓国	4,900 人	4,900 人	+113.0%	13.1%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	3,300 人	3,300 人	+266.7%	8.8%	0 人	1,800 人	△10.0%	8.8%
香港	7,400 人	7,400 人	+138.7%	19.8%	0 人	0 人	皆減	0.0%
アメリカ	500 人	500 人	+25.0%	1.3%	400 人	400 人	+300.0%	2.0%
その他	3,300 人	3,300 人	+83.3%	8.8%	3,800 人	10,600 人	+120.8%	51.7%
合計	37,300 人	37,300 人	+114.4%	100.0%	11,900 人	20,500 人	+45.4%	100.0%

## 各方面ごとの概況と見通し

### 東京

10月は、台風の影響、また、前年就航したエアアジア・ジャパン(新社名:バニラ・エア)の成田那覇路線が運休したことにより、若干の減となった。  
11月以降、航空提供座席の拡充は落ち着きつつあるものの、修学旅行シーズンということもあり、全体として旅行商品の販売状況は好調であるため、前年並みとなる見込み。

### 大阪

10月は、台風の影響を受けたものの、伊丹路線の増便、LCCの関西路線が好調を維持しており、中旬の大型イベント効果で追い上げ、方面別では唯一の増加となった。  
11月以降、航空提供座席は縮小傾向にあるものの、旅行商品の予約状況は概ね好調であり、さらに10月の旅行キャンセル分を低価格商品販売でカバーする動きも見られ、前年以上に推移する見込み。

### 福岡

10月は、3連休のあった中旬、九州ブロックPTA大会が開催された下旬の入込は好調であったが、他方面同様、台風による航空便欠航、それに伴う旅行キャンセルが相次ぎ前年を下回った。  
11月は、団体旅行、パッケージ旅行等の旅行商品は前年以上の予約状況となっており、好調に推移することが期待できる。

### 名古屋

10月は、上旬の台風の影響を中旬3連休の好調さでもカバーできず、前年実績を下回る結果となった。石垣島及び周辺離島の周遊ツアーが依然として中高年層に人気である。  
11月は、現時点の予約状況では好調を維持しており、さらに12月の3連休及び年末年始も好調で、ファミリー層を中心に前年以上に推移していく見込み。

### 台湾

10月は、オフシーズンの上、台風により航空便欠航やクルーズ船寄港のキャンセルもあったが、ピーチ・アビエーションの就航効果がキャンセル分を上回り、空路客を中心に前年を上回る結果となった。  
11月以降、復興航空の台北出発時間が早朝となることから、入込に影響が出る懸念されるものの、安定した旅行需要に支えられ、春節時期まで堅調に推移する見込み。

### 韓国

10月は、依然として現地では汚染水流出等による食料品の安全問題の懸念が続き訪日旅行需要は鈍化しているが、訪沖旅行への影響は少なく、台風による航空便欠航はあったものの好調に推移した。  
11月の釜山那覇路線の就航効果、また、12月以降の冬場の安定した訪沖旅行需要に支えられ、今後も安定して推移する見込み。

### 中国本土・北京

10月は、国慶節期間中のチャーター便もなく、また、オフシーズンのため北京路線の再開後高かった搭乗率が落ち着きをみせている。  
11月以降、前年運休の反動により、しばらくは前年を上回る入込となる見込み。現地事務所では、中国内陸部、ロシア極東部へのプロモーションも実施しており、沖縄の知名度アップを図る予定。

### 中国本土・上海

10月は、国慶節期間中の増便及び使用機材大型化により、個人旅行客を中心に好調に推移した。空路客は、尖閣関連の影響が出る前の水準近くに回復している。  
11月から3月まで計7回の上海発クルーズ船(コスタ・アトランティカ)の寄港が予定されており、団体旅行客を中心に前年実績を上回る見込み。

### 香港

10月は、団体旅行、個人旅行ともに好調に推移した。離島に関する問い合わせも増加している模様。団体旅行については、塩作り体験やガラス作り体験など、体験メニューを組み入れた旅行商品が人気がある様子。  
11月、12月についても好調を維持しており、オフシーズンの落ち込みは例年より小幅になると予想される。